

♪♪♪ 宗次ホールおすすめ公演情報 2016年11月 ♪♪♪

チケットのご予約は 宗次ホール チケットセンターへ 052-265-1718(営業時間10:00-18:00)

秋本番、11月の宗次ホールは特にスイーツタイムコンサートが充実！リサイタルの方も世界的な名手たちの公演目白押しです♪

そして11月15日～12月25日まで、ギフト券10枚ご購入につき3枚のプレゼントチケットがおまけにもらえるお得なキャンペーンを行っております！前回お買い上げ頂いた際の12月末期限のプレゼントチケットをお持ちのお客様、どうぞお忘れなないようにこの機会にコンサートのご予約をどうぞ♪

(文責:宗次ホール企画担当 廣田 政子)

リンドバーグ、この演奏家を絶対見逃すな！

(ロンドン・タイムズ紙)

クリスチャン・リンドバーグ トロンボーン

11月18日(金)18:45開演 5,000円(学生3,000円) [指定]



1958年スウェーデン生まれのスーパーstar、その圧倒的なテクニックから「トロンボーンのパガニーニ」と評されるリンドバーグさん。常識を超える超絶技巧をこなし、CDは今まで66枚以上をリリース、金管楽器奏者としては初

めてのレーザーディスクをリリースするなど、正にトロンボーンを“ソロ楽器”として確立させた人物。その超人的な演奏は世界各国で大絶賛。「トロンボーンの王者だ。こんな演奏、“あの世”でしか聴けないと思っていた…(エドワード・クラインハマー、シカゴ交響楽団前奏者)」「リンドバーグは圧巻だった！ヒバリのうように歌ったかと思えば恐ろしく歯をむくライオンのように唸る。彼の演奏を聴いた後、その凄さに笑いが止まらなかった。(アイリッシュ・ニュース紙)」

2011年、東日本大震災の際に、来日共演が予定されていたノルウェーのオーケストラが原発事故に伴って渡航を中止したにも関わらず、リンドバーグさんは単独で来日を決行、震災復興のために、オーケストラとの公演が予定されていた大ホールにて入場無料でソロコンサートを行い、大きな感動をよびました。

デヴィッド・チャイルズ氏(ユーフォニアム奏者)のインタビューによると、最初に師事した先生がオーケストラで吹いていたことから、はじめはリンドバーグさんもオーケストラの団員として演奏することを夢見ていたそう。ですが、いざロイヤル・ストックホルム・オペラ管に入ると、トロンボーンは極めて出番が少ないこと、それから団での厳しい「階級制度」(曰く、ヴァイオリンは上層階級、トロンボーンは下層階級の扱いだそう)に気付いてしまい、僅か2年で退団。それからは、この保守的なシステムを壊す為、自らの目標に向かって独自の道を歩み始めたとのこと。「クラシック音楽」が持つどこか敷居が高いイメージを壊し、この芸術を若い世代など、より幅広い人にもっと楽しんで欲しいと仰います。

燃えるような情熱やファンキーさ、あるいは残酷さ。如何なる表現であっても人の魂に訴えかける音楽が何よりも好きだと話すリンドバーグさん。金管奏者として活躍するのに最も大切なことは？という問いには、「才能、知性、練習へのエネルギー、訓練。

そしてある程度の狂気！」とコメントされています。そして最後に自分にとっての「幸せ」とは、「愛をお互いが伝えあうことこそが幸せ。愛を表現すること。それは音楽を通じてでも、他の芸術を通してでも、また日々のさりげない行動の中でもいい。僕は音楽を通して愛を伝えるんだ。僕の演奏を聴いてくれた聴衆の方から温かい言葉をかけてもらった時。それこそが自分にとっての至福の瞬間だよ。」と締めくくっています。なんともカッコいいカリスマ・プレイヤーの演奏、お聴き逃しのないように！！

**「私はクラリネットの音で世代のギャップを埋めたい
音楽にはその力があると確信しているんだ」**

**リチャード・ストルツマン クラリネット
ミカ・ストルツマン マリンバ**

11月19日(土)18:00開演 4,500円(学生2,700円) [指定]



グラミー賞を2度も受賞している天才的な奏者でありながらステージでは90度のお辞儀、常にクラリネットの更なる可能性を模索して様々なジャンルに挑戦し続けるストルツマンさんは74歳の今も国際的に活躍し続ける世界的奏者。そして彼が「自分の価値観を変える程、影響を受けている」と語る、奥様であり世界的なマリンバ奏者であるミ

カ・ストルツマンさんとの共演コンサートです！

ストルツマンさんの演奏はそのブレス(息)の凄さが有名ですが、毎日呼吸法の訓練を欠かさないそう。思い切り息を吸って、30秒程かけて少しずつ楽器の中に吹きこんでいく(あくまでも少しづつなので顔は真っ赤になってしまうそう!) トレーニングを毎日必ず行うそうです。

現在までに70枚を優に超える数のCDをリリースしているストルツマンさんですが、録音でも生演奏でも、その時々で心が感じるまま、違った演奏をすることを楽しんでおられる様子。「誰でも、昨日の自分と今日の自分は全く違う人間だからさ」と。昨日と同じ演奏にはならないように、但し昨日より更に良い演奏ができるように。そうして今でも更なる挑戦を続けています。

私達は皆呼吸をしますし、弦・鍵盤楽器奏者でも歌いながら弾くこともあり、演奏と呼吸には密接な関係があります。ですが呼吸が演奏と直接結びつくクラリネットはやはり“より人間的な楽器”だ、とストルツマンさん。「聴衆を泣かせても、演奏家は涙を流すべからず」…自分の心を演奏に込めながらも、音楽を最も情感豊かに表現できるよう、冷静な思考で呼吸と技術をコントロールしなければならないと仰います。

今回はラヴェル「セキ王女のためのパヴァーヌ」といったクラシックの名曲から、チック・コリア「Sea Journey(航海)」、他にもピアノソナタや武満徹など色々な側面から彼の演奏を堪能できる多彩なプログラム。ところでストルツマンさんが武満徹の「カトレーン」をボストン響×小澤征爾指揮、カーネギーホールにて初演した時のこぼれ話。『既にその公演の前にボストンで初演を行っていたし、録音までしていたから、カーネギー公演も余裕だと思っていたんだよ。武満徹氏も駆けつけてくれた。それなのに…何が

起こったか、10分程曲が過ぎたところで、突然、皆がどこを演奏しているか見失ってしまった。小澤氏もどこを振っているかわからなくなった、我々もわからなくなった。地獄だよ。15秒程だったろうか、皆バラバラ。楽譜と全く違うことをやって、パワー…といった変な音がしばらく鳴り響いた。凍りついたよ。作曲家と我々演奏家しか気付いていなかったけどね、とにかく、ひどかった。終演後、僕は恥ずかしくて武満氏に会いたくなくてなかった。合わせる顔がなかったから…楽屋に訪れた彼はひたすら“私の作品を演奏してくれて、ありがとう…”と言うからさ、真剣に謝ったんだよ。そうすると武満氏は“どこで見失ったか、わかったかい？”と。“もちろん、わかっています”と答えると、武満氏、何と答えたと思う？“あんな音楽を私は、書きたいのですよ！”と！！驚いたよ。』その武満氏の発言を受けて、彼が言いたかったことはきっと、“クリエイター＝作曲者が想像すらしなかったような瞬間を創れ”ということだったのではないかと話すとストルツマンさん。全ての経験を自らの糧にする感性を持つ世界的奏者は、“まだまだ自分の目標に辿りついていない”と、走り続けます。

リート演奏に音楽人生を捧げてきた『リートの巨人』

ロベルト・ホル バス・バリトン
みどり・オルトナー ピアノ

11月24日(木) 18:45開演 4,500円(学生2,700円) [指定]



以前会員の皆様へお届けしました、ロベルト・ホルさん公演のモノクロチラシを覚えていらっしゃるでしょうか？歌曲公演は毎回集客に苦勞する旨をピアニストのみどり・オルトナーさんへお伝えしたところ、頂いたお返事を掲載したものでした。その中にあった「オペラは

劇場芸術で、どこか世界に向かってわあっと歌うものですが、リートはひとりひとりの心に歌いかける芸術でありますから…」という言葉がすごく心に残りました。

実はオルトナーさんはもともと歌手で、歌の勉強をしにウィーンへ渡られ、それからピアノをかけもちで始められたそう。ご自分の歌手としての経験からわかる息づかいなどが、伴奏にも活かされているとお話されます。

ホルさんとオルトナーさんの初共演は、オルトナーさんの亡きご主人でヨーロッパにおける指折りの歌曲伴奏者であったロマン・オルトナー氏10年忌のメモリアル・コンサートだったそうです。この時も、シューベルトを演奏されました。ホルさんといえば、オペラ歌手としてバイロイト音楽祭やウィーン国立歌劇場等でも活躍されていますが、実はそれでも多くのオペラ出演を拒否して、リート演奏にその音楽人生を捧げてきた、「真の芸術家」とオルトナーさんは表現なさいます。

“ホルの演奏は、それぞれの歌曲を音楽で表現するだけでなく、ひとつひとつの言葉に込められた感情を表現し尽くす、無比の味わいだ(タイムズ紙・英国)”と世界中で賞賛されるホルさんですが、思想的・詩的なテーマをもった歌曲だけのプログラムを一晚で歌うというのは、たいいていのオペラの役を歌うよりはずっと責任が重いものとオルトナーさんは話します。

ティーレマンやA. シフ、バレンボイムなど世界的な音楽家たちから共演の依頼が絶えないホルさん。“彼の創るリート芸術の深みを理解すると、それは衝撃的な感動だ”とオルトナーさんは仰います。25歳でウィーンに渡り、まだこの巨人との共演が果たされるよりずいぶん前からホルさんの演奏に触れる機会は多くあ

たというオルトナーさんですが、ある時ホルさんの歌うシューベルトのわずか2分強の歌曲「愛と美がここにいたことを…」を聴いて、人生が変わったと話します。“それは時間が止まり、自分の心臓も鼓動を忘れ、詩と音楽の定義はとり外され、音楽からは小節線が消え、「詩」というものが音楽を通じて絵になるということ、ホルさんの演奏を通じて初めて体験した”と仰います。ホルさんの重厚な声、必ず、感動の夜になります。良いお席はお早目に。

お得なスイーツタイムコンサート！

13:30開演 2,000円 自由席 ※終演15:00予定

プレゼントチケット(ギフト券セット購入のおまけ等)2枚で入場可能

★チャリティーシート(指定席)AB列中央付近23席限定

スイーツタイムコンサートは、これからクラシック音楽をじっくり聴いてみたいなあという方、夜は出かけづらいので昼間に本格的な演奏を楽しみたいなあという方にぴったり。国際的にも活躍するベテラン演奏家から気鋭の若手までが登場。みな2,000円ではお得すぎるほどの素晴らしい演奏家たちです。ご期待下さい！

蘇る、昭和の音楽と共にあった音色

大人の音楽学校 13時間目

11月8日(火) リード・オルガンよ永遠に



“足踏みオルガン”とも呼ばれる楽器、皆さんは覚えていませんか？かつては幼稚園や学校に必ずあったこの楽器、足で踏むと空気が吸入され音が出る仕組み。子供の時友達と、一人が下に潜ってペダルだけを押す、上で鍵盤を弾いたりして遊んだ記憶が蘇ります。元々この楽器、フランスで実用化されてから改良を重ね、はるばる欧州から明治の日本へ伝わってきたそう。明治時代には教会での讃美歌と学校での唱歌

授業にはいつもこのオルガンの存在がありました。戦後、オルガンよりピアノの方が多く普及したため、この可愛らしい楽器を目にするのは今では減多にありませんが、この日はホールでこの懐かしい音色を堪能することができる大変珍しい機会。讃美歌の中でも最もよく知られている作品や蛍の光など、必ず誰もが懐かしい気持ちになれる曲と共に、このオルガンの歴史を紐解いてゆきます。ちなみに次の日11月9日(水)はこのオルガンを用いてのコーラス・グループ、ココロニによるオール・唱歌コンサート。故郷、紅葉、里の秋、蛍の光…ノスタルジックな響きで、古き美しい日々を思い出してみませんか。

2015年浜コン覇者がなんとスイーツに！！

今年6月には名フィル定期に登場、大絶賛

12月1日(木) アレクサンデル・ガジェヴ ピアノ

そして紙面がなくなってしまったのですが、どうしてもこちらの公演はオススメしたい！前回の浜松国際ピアノコンクール第1位及び聴衆賞を受賞した、注目の若手ピアニスト、ガジェヴさんがお得なスイーツに登場決定！チケットは売り切れる前にお早目に！

チケットのご予約・お問い合わせは

宗次ホールチケットセンターへ

☎ 052-265-1718